

Title	文学部古文書室の概要
Sub Title	
Author	田代, 和生(Tashiro, Kazui)
Publisher	三田史学会
Publication year	2012
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.81, No.1/2 (2012. 3) ,p.239- 241
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	シンポジウム
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20120300-0239

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

文学部古文書室の概要

田代和生

文学部古文書室には、かつて野村兼太郎経済学部教授（当時、以下同）が収集された前近代資料（古文書・古記録・古地図など）約五〜六万点を保管している。このうち約三万点が、関東地方を中心とする農村文書で、庶民の生活実態を知るための貴重な研究素材として塾内外の研究者に知られている。また約二万点は、寺社・公家・武家・商家の家別文書からなり、その概要は以下の通りである。

寺社・公家

二条家・下間家（京都本願寺）・賀茂社家・鴨脚家・宝鏡寺・比叡山・東漸寺（下総国）・東久世家・御岳山神社・石清水八幡宮

武家

長岡家（二本松藩代官）・柴崎家（白川藩士）・野村家（越前松平家用人）・仙石家（出石藩主）・梶

商家

川家（松平安芸守家人）・松平深溝家（島原藩主）・中川家（肥後岡藩主）・伊丹家（津山藩代官留守居）

津軽屋（江戸湯島）・横溝家（品川宿）・水戸屋（江戸）・菱屋（京都御池之町）・辰巳屋（伏見）・小島屋（大坂船町）・古森家（伊勢国宇治山田）・石見銀山

このほか古地図・村明細帳・宗門帳・武鑑などのコレクシヨン文書からなる。野村兼太郎収集文書以外では、幕末〜明治期にかけての長崎の豪商で第十八国立銀行創設にかかわった永見家文書、あるいは近世後期藩政改革の成功で知られる宇和島伊達家文書等が、文学部卒業の塾員によって寄贈されている。

古文書室は、一九六九年（昭和四十四年）に三田研究

棟建築を期に創設された。速水融経済学部教授と中井信彦文学部教授が発起人となり、野村教授没（一九六〇年）後旧研究室棟内に置かれていた貴重な古文書・古記録・古地図などの保存をはかるため、かつまたこれを死蔵することなく調査・研究の対象として活用することが目的とされている。このことは古文書室を図書館内ではなく、あえて研究室棟内に設置した理由とも重なる。膨大な古文書の整理作業を、教員と大学院生・学部学生等の協力により推進していくこと、さらに高度な専門的知識によって管理される古文書を、身近な研究素材として一般に提供できるための環境整備をはかることなども、古文書室設置の重要な目的とされた。このため毎年、夏期の二週間が古文書の整理作業期間とされ、難易度の高い古文書を解読できるようになった大学院生が学部学生を指導していくという、まさに「半学半教」の福澤精神を実践する整理作業が継続されていった。

やがて二〇〇三年（平成十五年）から二〇〇七年にかけて、古文書室は「教育学術情報データベース等の開発計画」に基づき、「慶應義塾大学所蔵古文書デジタル検索システム」の開発に着手することになった。その結果、二〇〇八年（平成二十年）に以下の目録を刊行すること

ができ、そのいずれもデジタル検索が可能となった。

『慶應義塾大学所蔵古文書目録 農村文書 武蔵国』
(上・中・下)

『慶應義塾大学所蔵古文書目録 武家文書 相良家』

『慶應義塾大学所蔵古文書目録 武家文書 宗家』

(相良家・宗家文書は、三田メディアセンター所蔵)

さらに二〇〇九年（平成二十一年）古文書室は文学部の附置組織となった。それに伴い「文学部古文書室関係資料目録編纂委員会」のプロジェクトに基づき、二〇一一年（平成二十三年）に

『慶應義塾大学所蔵古文書目録 農村文書 南関東』

を刊行し、これも公開が可能となった。また古文書室HP（文学部TOPより）をたちあげ、ここに古文書室の概要・沿革・所蔵資料・利用案内を掲載し、整理済み史料については古文書検索システムの利用によりキーワード、年月日指定による検索が可能となった。本システムは二〇一〇年（平成二十二年）に文書群検索機能が実装され、文書群データの整備を進めている。刊行された目録以外にも、寺社文書や商家文書の一部、あるいは北関東の整理済み史料などの検索も可能となり、その登録点数は現在約三五〇〇〇点に及ぶ。また文学部の組織に位

置づけられたことから、図書館に保管されていた野村教授収集文書が古文書室へ移管されることになった。そこにはこれまで内容がまったく知られていなかった、古代末から中世期にかけての古文書も含まれており、こちらは文学部の専任教員らによる研究が開始されたばかりである。

古文書室は、散逸の激しい関東地方の地方文書を中心に保管していることから、これまで自治体（県史・市町村史などの編纂事業）による史料調査の対象となり、ここからの情報発信によって保管史料の内容が外部に知られていた。このため利用者は地方史・農村史・郷土史にかかわる研究者が多く、それもほとんどが塾外からの来訪者で占められていた。

今回、三田史学会シンポジウムにおいて「慶應義塾の古文書―文学部古文書室所蔵史料を中心に」を開催し、古文書室が公開する検索システムについての解説と、所蔵古文書のうち内容がまったく知られていない中世文書と近代文書についてとりあげることにした。発表者は、いずれも塾内研究者である。まず古文書室側が情報を自ら発信する立場になり、この内容豊富な貴重な史料群を、より広い分野の方々に利用していただきたいと念じたか

らに他ならない。今回の発表を通じて、古文書室の保管する史料群の特徴だけでなく、史料を収集された野村兼太郎教授の歴史に注がれる熱いまなざしを見透すことができるのではないかと期待している。